学校番号	313

令和５年度　公民科

教科	公民	科目	政治・経済	単位数	２単位	年次	３年次
使用教科書	高校政治・経済　（実教出版）						
副教材等	世の中の動きに強くなる　ライブ！現代社会　2021（帝国書院）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

政治・経済については既知事項が多いので、授業にあっては、事象の背後にある原理や法則の系統的な解明に力をいれたい。

2　学習の到達目標

民主政治の原則と憲法の理念をふまえて、国会・内閣・裁判所の仕組み、政党政治や選挙のあり方についての考察を深める。またそれらを基礎として国際政治の現状についての認識を深める。

3　学習評価(評価規準と評価方法)

観点	a:関心・意欲・態度	b:思考・判断・表現	c:資料活用の技能	d:知識・理解
観点の趣旨	現代の政治,経済,国際関係について関心を高め、意欲的に課題を追究するとともに、国家・社会の一員として平和で民主的な社会生活の実現と推進について客観的に考察しようとする。	現代の政治,経済,国際関係に関わる事柄から課題を見いだし，その本質や特質，望ましい解決の在り方について広い視野に立って多面的・多角的に考察し，社会の変化や様々な立場，考え方を踏まえ公正に判断して，その過程や結果を様々な方法で適切に表現する。	現代の政治，経済，国際関係に関わる諸資料を様々なメディアを通して収集し，有用な情報を適切に選択して，効果的に活用する。	現代の政治，経済,国際関係に関する基本的な事柄や,本質特質及び動向を捉える基本的な概念や理論を理解し,その知識を身に付ける。
評価方法	観察	定期考査	定期考査	定期考査

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。
学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

4　学習の活動

学期	単元	学習内容	主な評価の観点				単元(題材)の評価規準	評価方法
			a	b	c	d		
1学期	第1編　現代の政治	第1章 民主政治の基本原理	○			○	a:・民主主義の歴史や基本的原理に関して、世界史学習と関連づけながら深い興味を抱き、現代政治との関連性を追究している。 主要国の政治制度に関して日本の政治制度と比較しながら関心を抱いている。 b:・西洋で発達した民主主義の原理と、日本の政治制度の仕組みとの関連を考察している。 ・現在の日本の政治状況やファシズムの独裁政治から民主主義の価値を判断しその過程や結果を様々な方法で適切に表現する。 c:・社会契約説や権力分立といった民主主義の原理について、ロックやルソーといった思想家たちの原典資料にもどりその内容を確認するなど、効果的に活用している。 d:・政治や法、民主主議や人権保障の歴史といった民主政治の基本原理についての知識を有している。 ・社会契約説や権力分立、主要国の政治制度などに関して的確な理解を示している。	定期考査 観察
		第2章 日本国憲法の基本的性格	○		○	○	a:・日本国憲法の成立過程や国民主権、基本的人権の尊重、平和主義といった日本国憲法の基本原則に対して興味や関心を抱いている。・現実の人権問題や平和主義にかかわる問題に対して関心を示し、日本が抱える課題に対して追究する態度を示している。	定期考査 観察

							b: 大日本帝国憲法と日本国憲法を比較しながら、民主主義の実現を目指す憲法の必要性について考察を加えている。 人権保障や平和主義といった憲法の条規と、現実の社会における課題との関連を考察し、社会の望ましい在り方を判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	
							c:日本国憲法の成立や人権保障、平和主義に関する情報を、様々な手段を使い収集している。 人権問題や平和主義に関して収集した資料を、自ら設定した課題解決のために主体的に選択し、活用している。″ d: 日本国憲法の成立過程について、史実と関連させて適切に理解している。 日本国憲法の基本原則について総括的な知識を有している。 平和主義や基本的人権に関する憲法条規に関する知識を前提に、現実の課題に対する多面的な理解を示している。	
		第3章 日本の政治機構		○		○	a:国会、内閣、裁判所や地方自治といった日本の政治機構に対して、その仕組みや制度に関心をもち、現実の課題を追究する態度が見られる。 b:・憲法条規上の国会、内閣、裁判所や地方自治の規定と、現実の三権の状況や中央と地方との関連などを的確に比較し考察している。また、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。	定期考査 観察

							c:・国会、内閣、裁判所や地方自治に関する情報を新聞などマスメディアを通じて収集し、学習のために主体的に活用している。 d:・国会、内閣、裁判所、地方自治について、憲法条規に照らし合わせて、その仕組みや権限、さらに相互の均衡と抑制の在り方などを理解している。	
		第4章 現代日本の政治〞		○	○		a:現代日本の政治動向に対する関心が高まっている。 政党政治や選挙などに着目して、望ましい政治の在り方や国民の参政の在り方を客観的に考えようとしている。 b:・現代日本の政治動向から、課題を見いだしている。 政党政治や選挙制度など現実の政治課題に関して、社会の変化や様々な考え方を踏まえて公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 c:・政党政治や選挙制度、官僚制度などに関する情報を様々なメディアを用いて収集し、かつ学習に必要な情報を主体的に選択し活用している。 d:政党政治や選挙制度、官僚制度などに関して、客観的な知識を持っている。 世論と政治の関係を正しく理解し、望ましい参政の在り方を考察している。	定期考査 観察
		第5章 現代の国際政治	○			○	a:現代の国際社会における政治の動向に対して、関心が高まっている。 安全保障についての考え方や、国家間の対立、民族紛争といった国際紛争の諸要因を意欲的に探究している。〞	定期考査 観察

							b:国内政治と国際政治の違いを、現実の状況を踏まえて多面的に考察している。 これからの国際社会における国際連合の在り方について、ポスト冷戦という新しい状況の中、様々な考え方を踏まえ公正に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。″ c:・現代の国際社会における政治の動向に関する諸資料を、様々なメディアを通して収集している。・国際社会における今後の日本のかかわりに関する諸資料を収集し、効果的に活用している。 d:・国際対立の経験を通じ、国際間の相互依存、紛争の平和的解決のための国際機構や国際法が発達してきたことを理解し、その仕組みや制度に関する知識を身につけている。・核兵器と軍縮、難民問題といった今後解決すべき国際社会の諸課題について、的確な理解を示している。	
	第2編　現代の経済	第1章 経済社会の変容		○		○	a:経済に対する興味を前提に、資本主義経済の特徴や歴史について意欲的に追究している。 b:混合経済や経済活動のグローバル化など現代経済の特徴について、経済活動の国際比較を行うなど多面的・多角的に考察し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 c:混合経済や経済活動のグローバル化など現代経済の特徴に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、効果的に活用している。	定期考査 観察

							d:アダム＝スミスからケインズ、さらに新自由主義に至る経済学説を、経済社会の変容にあわせて的確に理解している。 ・資本主義経済の一般的特徴について、十分な知識を持っている。	
		″第2章 現代経済のしくみ″	○			○	a:現在の日本経済の動向に対する関心が高まっている。 市場機構や景気変動、金融・財政といった経済の諸理論に対して関心を深め、理論との関連を踏まえながら現実の経済活動を探究する意欲的な態度が見られる。″ b:現代の日本経済の動向から、課題を見いだしている。 家計、企業、政府の経済主体間の経済循環を、現実の経済活動と対応させながら考察している。 金融や財政についての基本的知識をもとに、現実の金融・財政問題やその解決方法について、主体的に判断をし、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。″ C:現代の日本経済の動向に関する諸資料を、様々なメディアから収集している。 収集した資料から市場機構や金融・財政などの学習に役立つ情報を主体的に選択し、活用している。″	定期考査 観察

							d:家計、企業、政府といった経済主体相互の関連が、国民経済を構成していることを理解している。 適切な価格決定や資源配分といった市場経済のもつ特性を理解するとともに、その限界についても考察を加えている。 金融や財政に関する基本的な知識をもとに、金融改革や財政改革といった日本経済の課題に対する十分な理解を示している。 〃	
		第3章 現代経済と福祉の向上	○			○	a:・第1章、第2章で学んだ経済理論をもとに、現実の日本経済の特徴と課題に関心を示している。 高度成長から安定成長、バブル経済からバブル後の不況といった戦後日本経済が歩んだ流れを追究しようとする意欲が見られる b:戦後日本経済史との関連の中で、中小企業や農業問題、公害問題など日本経済の課題を考察している。 経済発展のための効率性の追求と、国民福祉の向上で求められる公正さとの関連を、労使関係や社会保障を題材として的確に判断し、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 c:戦後日本経済史に関する史料を、様々な文献から幅広く収集している。 中小企業や農業、消費者保護や労働問題、社会保障といった様々な課題に関するデータを白書類から収集し、課題解決の手段として活用している。 d:中小企業や農業問題、消費者問題や公害、労働問題や社会保障といった日本経済の現状と課題に関して十分な知識を有している。	定期考査 観察

		第4章 世界経済と日本		○		○	a:現代の国際経済の動向に対する関心が高まっている。 国際的な相互依存関係の深化など、国際経済の特質を意欲的に追究している。″ b:・現代の国際経済の動向から、課題を見いだしている。 ・経済のグローバル化の動きに対して、商品や労働力、資金の移動などから多面的・多角的に考察するとともに、競争原理を前提としたグローバル化の弊害についても的確な判断を示しており、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 c:現代の国際経済の動向に関する諸資料を、様々なメディアを通して収集している。 収集した資料から、グローバル化の進展など国際経済の特質、国際経済の安定と成長のために果たすべき日本の役割などについての情報を主体的に選択して活用している。 d:・自由貿易と保護貿易の考え方、国際収支表の見方や為替レートの仕組みなど、国際経済に関する基本的な知識を習得している。 自由貿易を前提とした戦後国際経済の流れを理解し、国際通貨基金や世界貿易機関などの仕組みに関する知識を有している。 グローバル化が進む国際経済の動向の中で、地域的経済統合や南北問題の新たな局面を理解している。	定期考査 観察

	第3編 現代社会の諸課題		○		○	○	a:現代日本や国際社会の諸課題に対する関心を高め、課題を意欲的に追究し、望ましい解決の在り方を客観的に考えようとしている。 b:現代日本や国際社会の諸課題を多面的・多角的に考察し、望ましい解決の在り方について社会の変化や様々な立場、考え方を踏まえて公正に判断している。また、その過程や結果を様々な方法で適切に表現している。 c:現代日本や国際社会の諸課題に関する諸資料を様々なメディアを通して収集し、学習に役立つ情報を主体的に選択し活用している。 d:地域社会の変貌と住民生活、中小企業の新しい変化、農業、農村と食料、環境問題、雇用と労働をめぐる問題、これからの社会保障のあり方、地球環境の保全と経済成長、原子力と再生可能エネルギー、人種・民族問題、国際経済格差の是正と国際協力、現代日本や国際社会の政治や経済の諸課題に関する基本的な事柄について理解し、その知識を身につけている。	定期考査 観察

※　表中の観点について　a:関心・意欲・態度　　b:思考・判断・表現
c:技能　　d:知識・理解

※　年間指導計画（例）作成上の留意点

・原則として一つの単元（題材）で全ての観点について評価することとなるが、学習内容（小単元）の各項目において特に重点的に評価を行う観点（もしくは重み付けを行う観点）について○を付けている。